

第2期ふじみ野市環境基本計画(後期行動計画)アンケート調査結果概要

総括

アンケート調査結果に関する総括

今回のアンケート調査は、無作為に抽出した市民 2,000 人及び事業所 200 社、また、将来を担う小・中学生を対象に、環境に対する意識や環境活動への参画状況などを把握し、令和5年度から令和9年度までの「第2期ふじみ野市環境基本計画(後期行動計画)」を策定するにあたっての基礎資料とすることを目的とし、令和3年 11 月に実施しました。

配布数及び回収数は下記の通りです。

対象	配布数	有効回収数	有効回収率
市民	2,000 件	769 件	38.5%
小・中学生	636 件	573 件	90.1%
小学生	427 件	386 件	90.4%
中学生	209 件	187 件	89.5%
事業所	200 件	52 件	26.0%

【市民アンケート調査】

市民は、ふじみ野市の身近な環境について、7割以上の市民が「非常に快適な環境だ」、「どちらかといえば快適な環境だ」、「今後も住み続けたい」と回答しており、多くの市民が肯定的な印象を持っていると考えられます。その理由として、生活環境の快適さや、安心・安全なまちとの回答が多く、生活していくうえでの利便性のよさを感じている市民が多いと推測できます。こうした中で、5年前と比較すると、人の往来や、自動車交通量、住宅地が多くなったとの回答が多く、一方で田畑や、自然の緑、昆虫や野生の動植物などが少なくなったとの回答もあり、自然環境に変化があったと感じられている市民が多く見られました。

環境問題や、環境保全活動への関心については、地球温暖化や、ゲリラ豪雨、再生可能エネルギーなどの活用といった環境問題への関心が高く、ごみ問題についても、買い物にマイバックを持参したり、ごみの分別の徹底、過剰包装を断るなど、ごみに関する市民の意識の高さがうかがえました。なお、ふじみ野市が提供している「ごみ分別アプリ」については、6割以上が「知らない」と回答しており、認知度は約35%となっています。環境保全活動については、リサイクル運動の推進や大気汚染・騒音・振動対策が必要だという回答が多く、行政に対して、ごみの減量化やリサイクル運動の推進、緑や緑地の保全などを求める声が多く聞かれました。

また、市民の重要度と満足度評価では、ごみの分別の徹底や、ごみの減量化の推進、学校における環境教育の推進が重要度・満足度ともに評価が高い結果となりましたが、ゲリラ豪雨対策や、LED 道路照明などの設置、ごみのポイ捨て及び路上喫煙防止キャンペーンの実施などは、重要度は高いものの、満足度はそこまで高くない結果となっています。

地球温暖化対策に関する行動については、照明の消灯や、ごみの分別の徹底、マイバックの使用など、多くの市民が地球温暖化対策の行動をしている一方で、生活の利便性が下がる、効果に疑問があるとしても、同意見があり、地球温暖化対策としての施策の認知度、周知が不足している事も推測されます。

新型コロナウイルス感染症の流行に伴う環境の変化については、約6割が変化があったと回答しており、

具体的な変化では、「家庭ごみの量が増えた」や、「環境問題のニュースが気になるようになった」などの回答が多く、市民の多くに多方面で影響があったことが考えられます。そのような中で、SDGs(持続可能な開発目標)についても、市民の半数以上が知っている及び、関心があると回答しており、新型コロナウイルス感染症の流行もあってか、市民の環境問題への関心の高さを感じます。

当アンケート全体を通して、市民の環境問題への関心度は高く、市民一人ひとりが実際に行動を起こしている傾向が見られましたが、一方で、まちの緑化や、小動物のふん害などへの不満も見られ、行政の対応を求められています。ふじみ野市の環境将来像として、1位に最も多く選ばれた「自然の緑や水辺が大切に守られるまち」のように、自然環境の大切さが求められているように考えられます。

【小・中学生アンケート調査】

小・中学生は、ふじみ野市の身近な環境について、小・中学生ともに8割以上が「好き」と回答している一方で、進めるべき環境の取り組みとして、「空き缶、たばこなどのポイ捨てをなくす」、「ごみの不法投棄をなくす」との回答が多く、ごみが目立つ印象を持っていると考えられます。

また、普段から取り組んでいる内容として、「スーパーなどで袋をもらわないことや、ごみを少なくする」や、「紙類やプラスチック容器などのごみの分別」との回答が多く、ごみ問題に積極的に取り組んでいると推測できます。

ふじみ野市の将来の環境像で、1位を選んだのは、「まちをきれいにする」が最多となっており、やはりこちららごみ問題をはじめとするまちの美化に対する意識が高い傾向にあります。

ふじみ野市の将来を担う小・中学生が、ふじみ野市、ひいては地球環境を心配しており、その環境問題の情報源として、小・中学生ともに8割以上が「学校の授業」と回答していることから、学校の授業の重要性を感じることができます。

【事業所アンケート調査】

事業所は、企業の環境への取り組みと企業活動のあり方について、6割以上の事業所が「環境への取り組みは、社会貢献の一つである」と回答しており、さらに、8割以上の事業所が環境対策へ取り組むことは重要だと回答したことから、市内の事業所の環境に対する意識が高いことがうかがえます。

また、「ごみ問題」や、「地球温暖化」、「電力削減対策(省エネ)」などの関心も高く、具体的な取り組みとして、「照明のLED化」や、「コピー用紙の両面使用」、「再生紙の使用」、「社用車のエコ運転、アイドリングストップ」など、各事業所において様々な対策を講じられていると推測できます。

環境保全や環境活動などに協力できるかについても、「ごみの分別やリサイクルなど、事業活動の中で手間をかけることができる」が84.6%と高く、こちらら意識の高さがうかがえました。

一方で、行政にも、「ごみの減量化、リサイクルの推進」や、「道路交通網の整備による交通渋滞の解消」、「ごみのポイ捨てや犬などのふん放置のマナー向上対策」など、環境保全を求める声も多く聞かれ、事業所、市民、市民団体、行政等が協働して、環境保全に係る各種活動を推進するべきと考えられます。

市民アンケート調査結果ポイント

ポイント 【1】

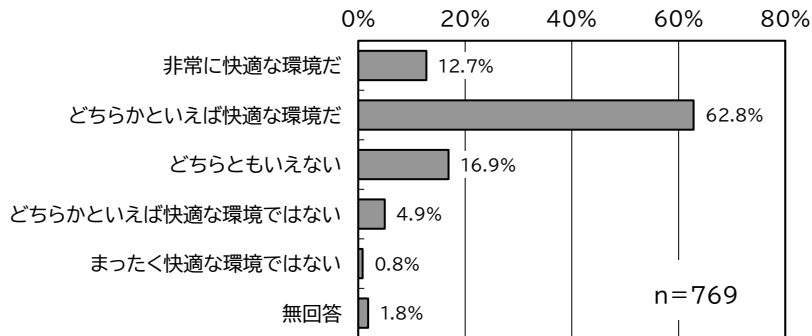
ふじみ野市の身近な環境について

「どちらかといえば快適な環境だ」が 62.8%で最多、「非常に快適な環境だ」と合わせると7割以上が快適な環境と回答。

■あなたは、ふじみ野市の身近な環境についてどのように感じられていますか。【あてはまるものを1つ選んでください。】 ※アンケート調査報告書 P.15 問2

ふじみ野市の身近な環境についてどのように感じているかでは、「どちらかといえば快適な環境だ」が62.8%と最も多く、「非常に快適な環境だ」と合わせると7割以上が快適な環境と回答しています。

また、「まったく快適な環境ではない」、「どちらかといえば快適な環境ではない」を合わせると 5.7%となっています。



ポイント 【2】

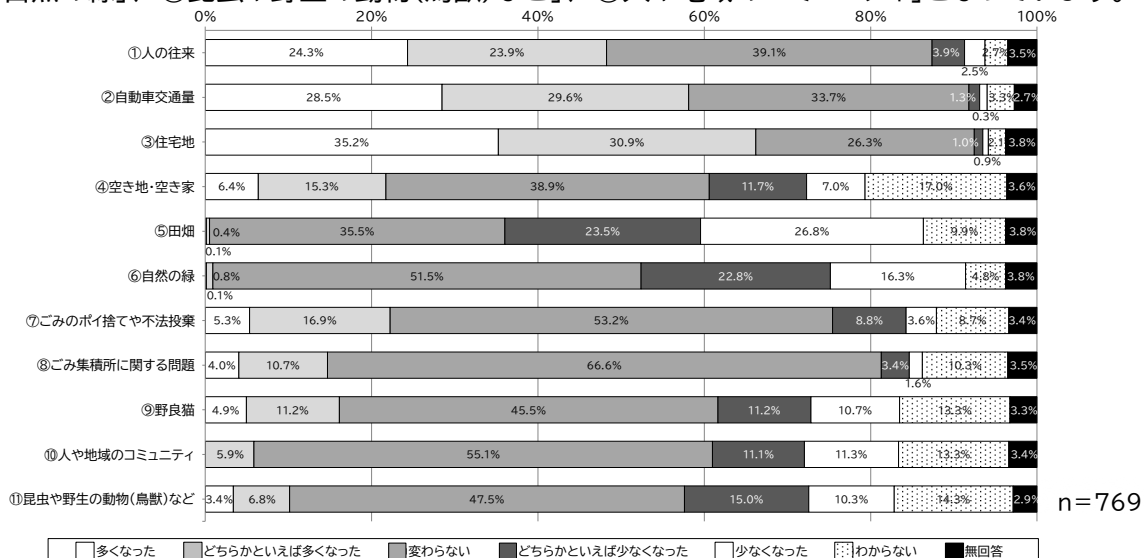
地域周辺の状況 ～5年前比較～

5年前と比較して、「住宅地」、「自動車の交通量」、などが多くなったと回答。一方で、「田畑」、「自然の緑」などが少なくなったと回答。

■あなたが住まいになっている地域周辺の状況は5年前に比べてどのように変化しましたか。(※居住5年未満の場合は住み始めた頃と比較してどのように変化したかお答えください)【以下の①～⑪に示す項目ごとに該当する番号を1つ選んでください。】 ※アンケート調査報告書 P.23 問6

お住まいになっている地域周辺の状況は5年前に比べてどのように変化したかでは、「多くなった」、「どちらかといえば多くなった」を合わせた項目では、「③住宅地」が最も多く、次いで「②自動車交通量」、「①人の往来」となっています。

また、「どちらかといえば少なくなった」、「少なくなった」を合わせた項目では、「⑤田畑」が最も多く、次いで「⑥自然の緑」、「⑪昆虫や野生の動物(鳥獣)など」、「⑩人や地域のコミュニティ」となっています。



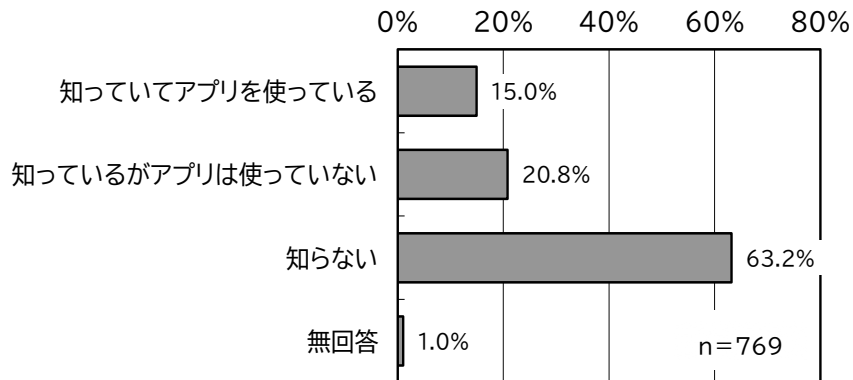
ポイント
【3】

「ふじみ野市ごみ分別アプリ」の認知度

「知らない」が 63.2%で最多、「知っているがアプリは使っていない」を合わせた「知っている」は 35.8%。

■あなたは、ふじみ野市が提供している「ふじみ野市ごみ分別アプリ」を知っていますか。【あてはまるものを1つ選んでください。】 ※アンケート調査報告書 P.29 問 11

「ふじみ野市ごみ分別アプリ」を知っているかでは、「知らない」が 63.2%、「知っているがアプリは使っていない」が 20.8%、「知っているがアプリを使っている」が 15.0%となっています。



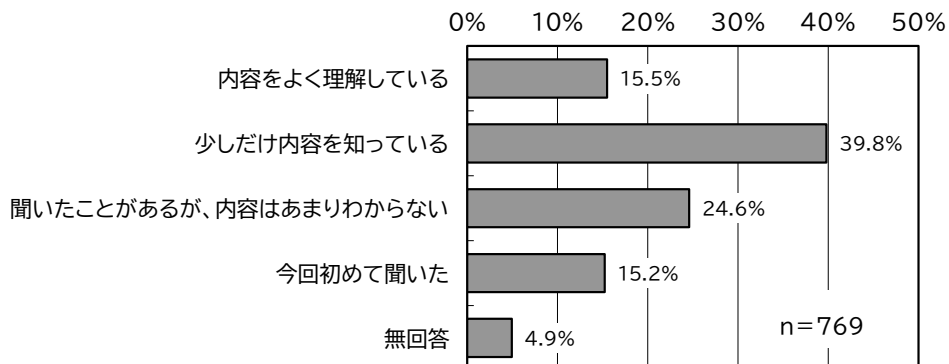
ポイント
【4】

「SDGs(持続可能な開発目標)」の認知度

「少しだけ内容を知っている」が 39.8%、「内容をよく理解している」が 15.5%で、5割以上の方が知っていると回答。

■あなたは「SDGs(持続可能な開発目標)」を知っていますか。【あてはまるものを1つ選んでください。】 ※アンケート調査報告書 P.60 問 19

SDGs(持続可能な開発目標)を知っているかでは、「少しだけ内容を知っている」が 39.8%、「内容をよく理解している」が 15.5%となっており、5割以上の方が知っていると回答しています。



ポイント
【5】

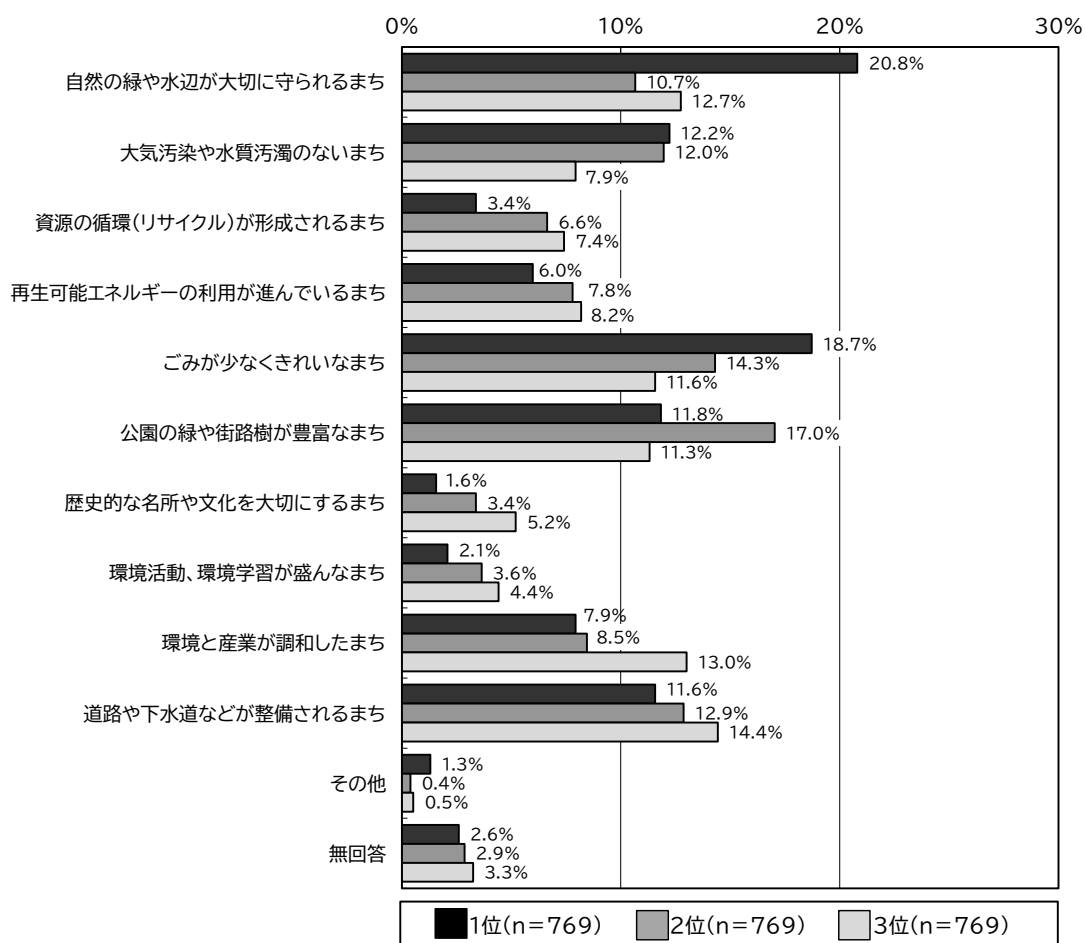
ふじみ野市の環境将来像【第1位】から【第3位】

「1位」に選択したのは「自然の緑や水辺が大切に守られるまち」が 20.8%で最多、「2位」に選択したのは「公園の緑や街路樹が豊富なまち」が 17.0%で最多、「3位」に選択したのは「道路や下水道などが整備されるまち」が 14.4%で最多。

■あなたは、将来のふじみ野市がどのようなまちになったらよいと思いますか。次の1～11の中から重要度が高いと考えるものを第1位から第3位まで番号をご記入ください。

※アンケート調査報告書 P.67 問 22

将来のふじみ野市がどのようなまちになったらよいかで、「1位」に選択したのは「自然の緑や水辺が大切に守られるまち」が 20.8%と最も多く、「2位」に選択したのは「公園の緑や街路樹が豊富なまち」が 17.0%と最も多く、「3位」に選択したのは「道路や下水道などが整備されるまち」が 14.4%と最も多くなっています。



ポイント
【6】

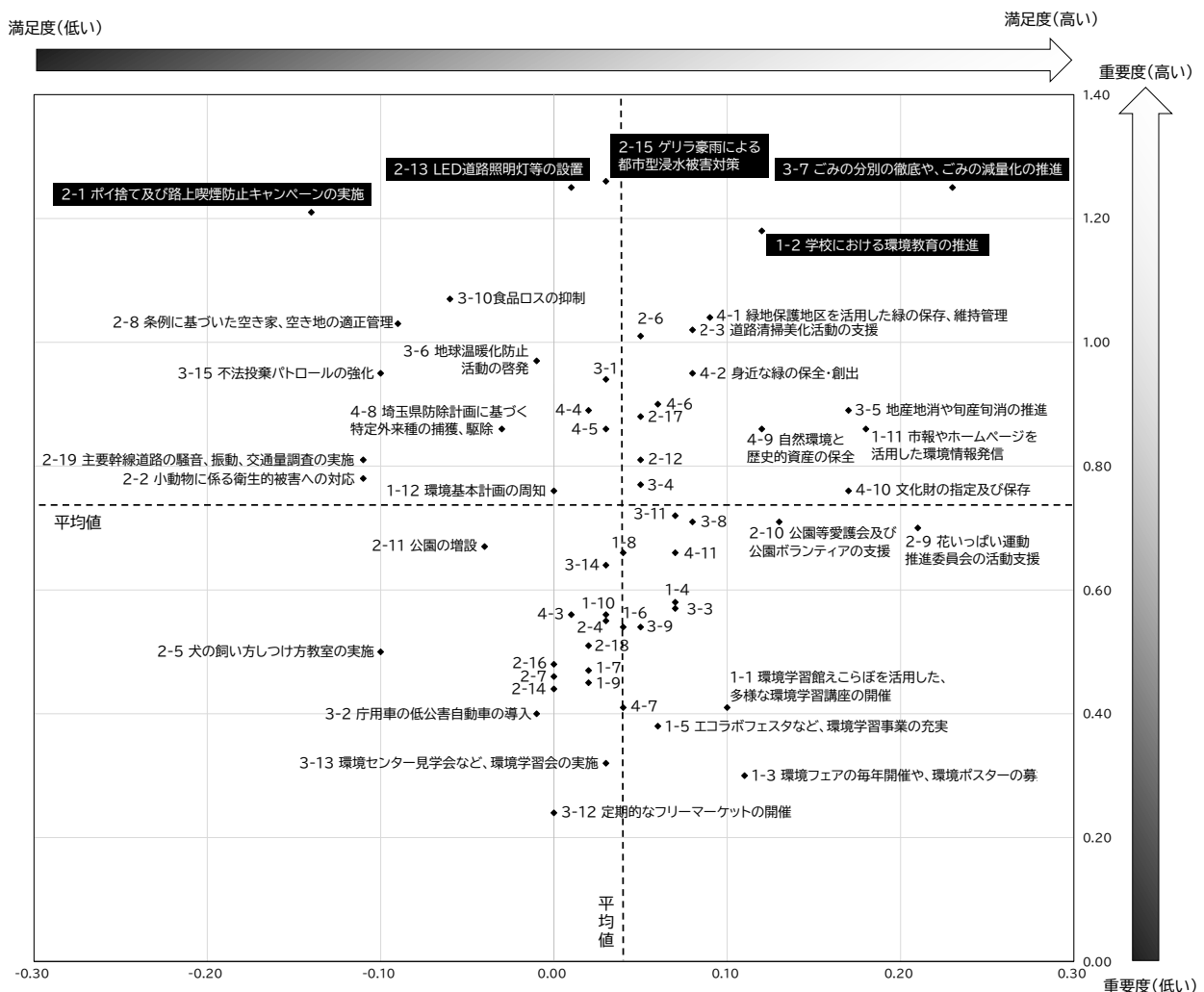
環境に関する施策の重要度と満足度

満足度の高い項目として、「ごみの分別の徹底や、ごみの減量化の推進」、「学校における環境教育の推進」。重要度の高い項目として、「ごみの分別の徹底や、ごみの減量化の推進」、「ゲリラ豪雨による都市型浸水被害対策」、「LED 道路照明灯等の設置」。

■以下の項目について、①あなた自身または、市や対象者が実施すべき項目としてどの程度重要と考えるかの重要度をお聞きします。また、②それらの項目について、どの程度満足しているかの満足度をあわせてお伺います。【①重要度と②満足度のあてはまるものをそれぞれ1つ選んで○をつけてください。】 ※アンケート調査報告書 P.34～P.41 問 14

満足度、重要度とともに高い項目として、「ごみの分別の徹底や、ごみの減量化の推進」となっており、満足度は「学校における環境教育の推進」も高く、重要度は「ゲリラ豪雨による都市型浸水被害対策」、「LED 道路照明灯等の設置」も高くなっています。

また、それぞれの平均値は、満足度が「0.04」、重要度が「0.74」と、どちらもプラス値となっていますが、満足度は「どちらともいえない」に近く、重要度は「どちらともいえない」より大きくプラスとなっています。



市民アンケートから「重要度」、「満足度」を5段階でお伺いし、数値化しました。「どちらともいえない」を0とし、+側が重要、満足、-側が重要でない、不満足となっています。

平均満足度:0.04

平均重要度:0.74

小・中学生アンケート調査結果ポイント

ポイント
【1】

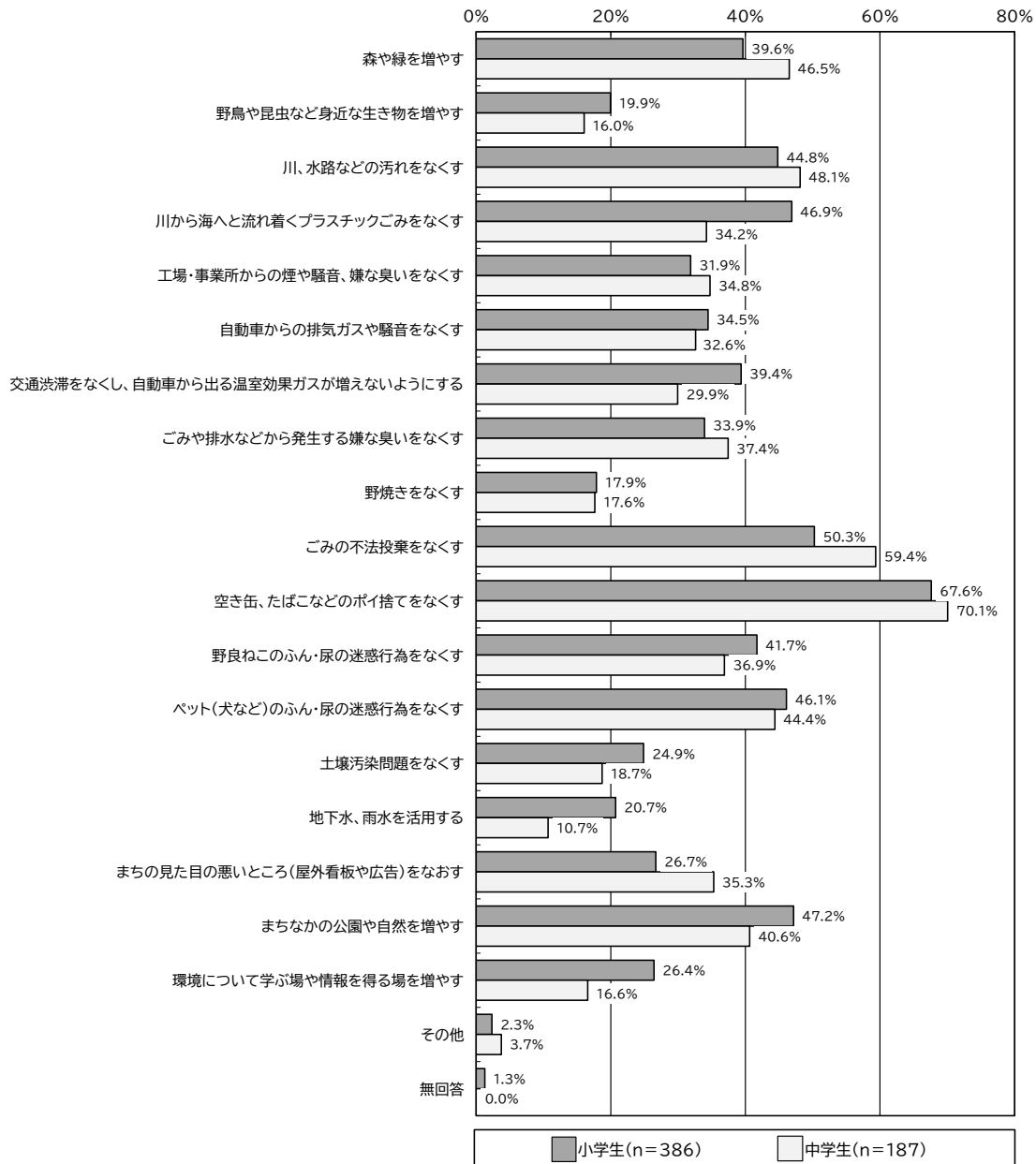
住んでいる地域環境の進めるべき取り組み

小学生は、「空き缶、たばこなどのポイ捨てをなくす」が 67.6%で最多、次いで「ごみの不法投棄をなくす」、「まちなかの公園や自然を増やす」。中学生は、「空き缶、たばこなどのポイ捨てをなくす」が 70.1%で最多、次いで「ごみの不法投棄をなくす」、「川、水路などの汚れをなくす」。

■あなたが住んでいる地域の環境について、進めるべき環境の取り組みは、どのようなものが考えられますか。次の中からあてはまるもの全てに○をつけてください。 ※アンケート調査報告書 P.77 問6

地域の環境について、進めるべき環境の取り組みは、小学生は、「空き缶、たばこなどのポイ捨てをなくす」が 67.6%と最も多く、次いで「ごみの不法投棄をなくす」が 50.3%、「まちなかの公園や自然を増やす」が 47.2%となっています。

また、中学生は、「空き缶、たばこなどのポイ捨てをなくす」が 70.1%、「ごみの不法投棄をなくす」が 59.4%、「川、水路などの汚れをなくす」が 48.1%となっています。



ポイント
【2】

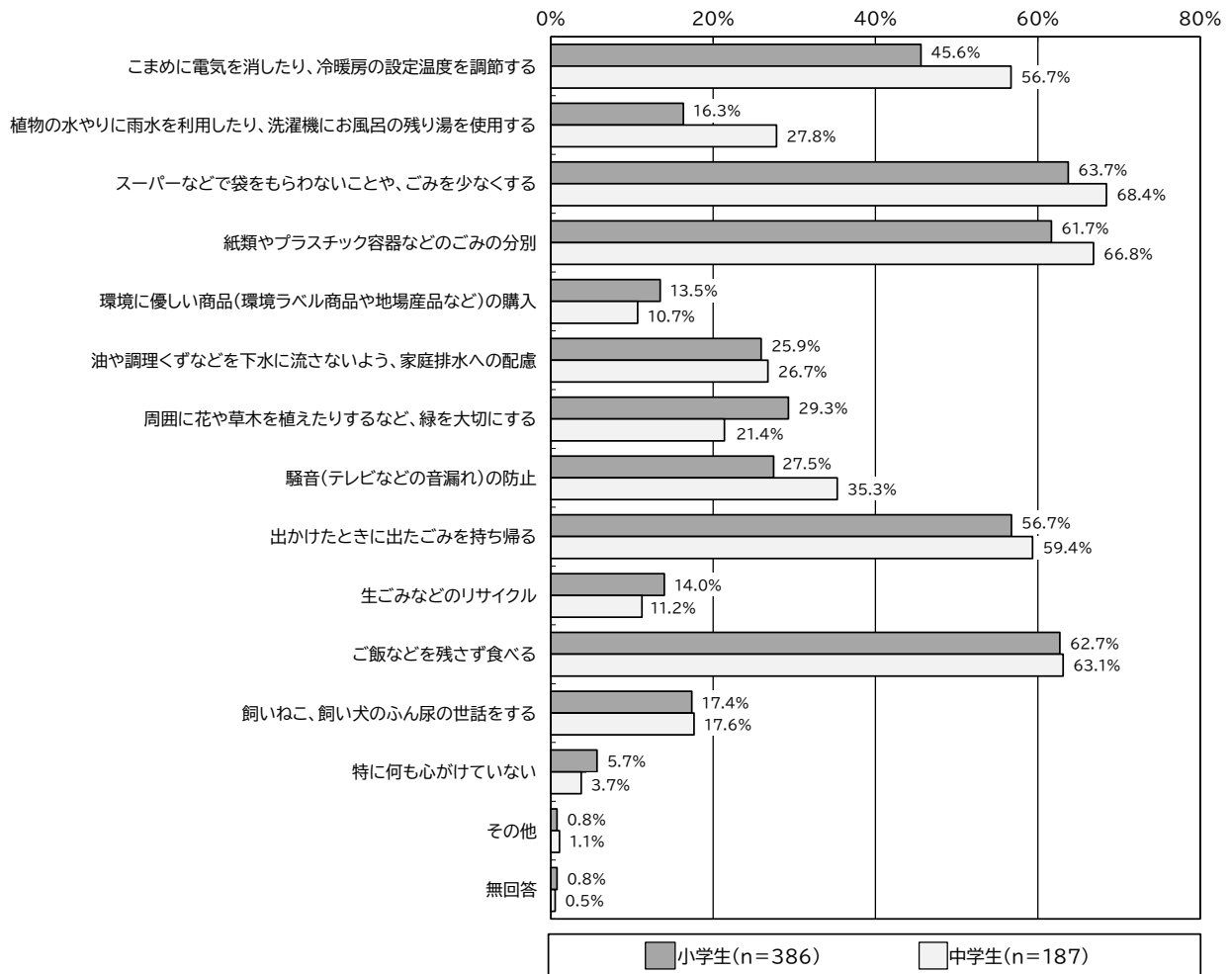
環境に関して普段取り組んでいること

小学生は、「スーパーなどで袋をもらわないことや、ごみを少なくする」が 63.7%で最多、次いで「ご飯などを残さず食べる」、「紙類やプラスチック容器などのごみの分別」。中学生は、「スーパーなどで袋をもらわないことや、ごみを少なくする」が 68.4%で最多、次いで「紙類やプラスチック容器などのごみの分別」、「ご飯などを残さず食べる」。

■環境に関して、普段あなたが取り組んでいることはどのようなことですか。次の中からあてはまるもの全てに○をつけてください。 ※アンケート調査報告書 P.85 問9

環境に関して、普段あなたが取り組んでいることでは、小学生は、「スーパーなどで袋をもらわないことや、ごみを少なくする」が 63.7%と最も多く、次いで「ご飯などを残さず食べる」が 62.7%、「紙類やプラスチック容器などのごみの分別」が 61.7%、「出かけたときに出たごみを持ち帰る」が 56.7%となっています。

また、中学生は、「スーパーなどで袋をもらわないことや、ごみを少なくする」が 68.4%と最も多く、次いで「紙類やプラスチック容器などのごみの分別」が 66.8%、「ご飯などを残さず食べる」が 63.1%、「出かけたときに出たごみを持ち帰る」が 59.4%となっています。



ポイント
【3】

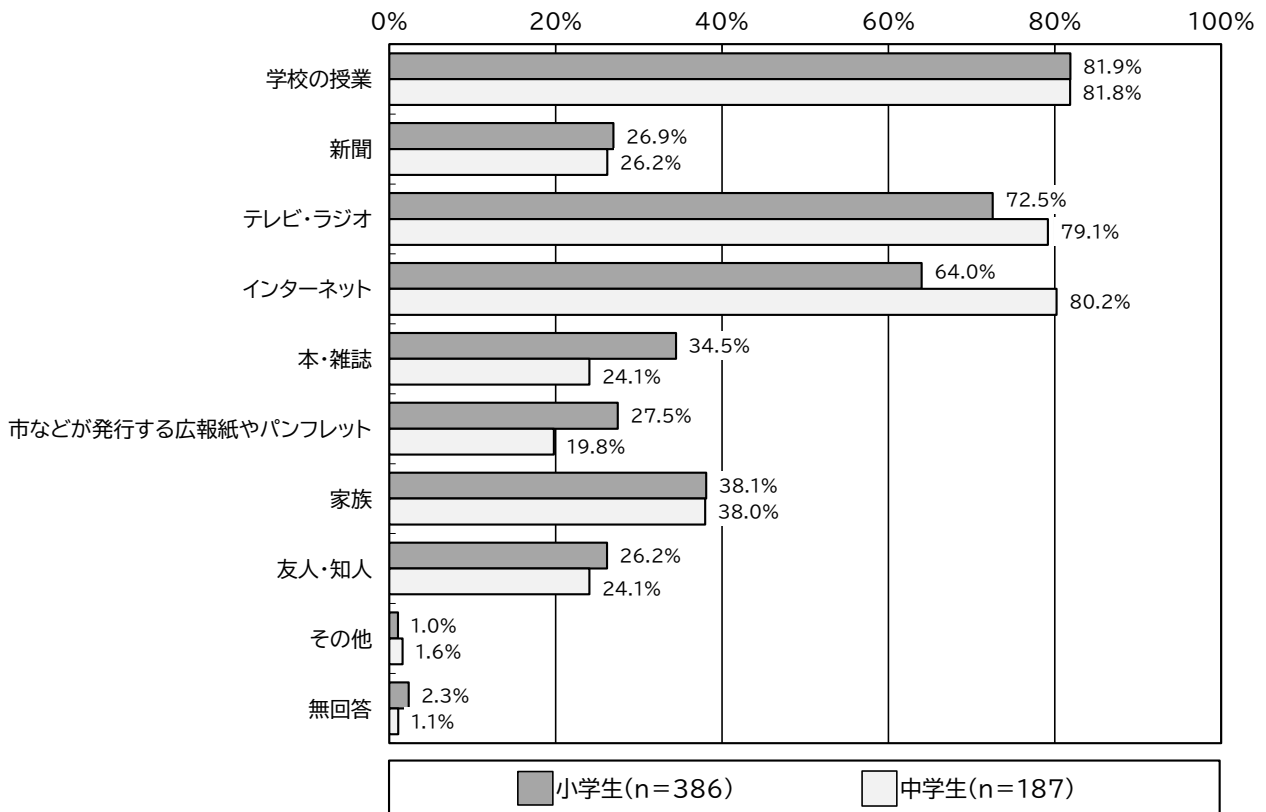
環境問題に関する情報源

小学生は、「学校の授業」が81.9%で最多、次いで「テレビ・ラジオ」、「インターネット」。
中学生も、「学校の授業」が81.8%で最多、次いで「インターネット」、「テレビ・ラジオ」。

■環境問題について、どのようなところから知ることができますか。次の中からあてはまるもの全てに○をつけてください。 ※アンケート調査報告書 P.115 問22

環境問題についての情報源は、小学生は、「学校の授業」が81.9%と最も多く、次いで「テレビ・ラジオ」が72.5%、「インターネット」が64.0%となっています。

また、中学生は、「学校の授業」が81.8%、「インターネット」が80.2%、「テレビ・ラジオ」が79.1%となっています。



事業所アンケート調査結果ポイント

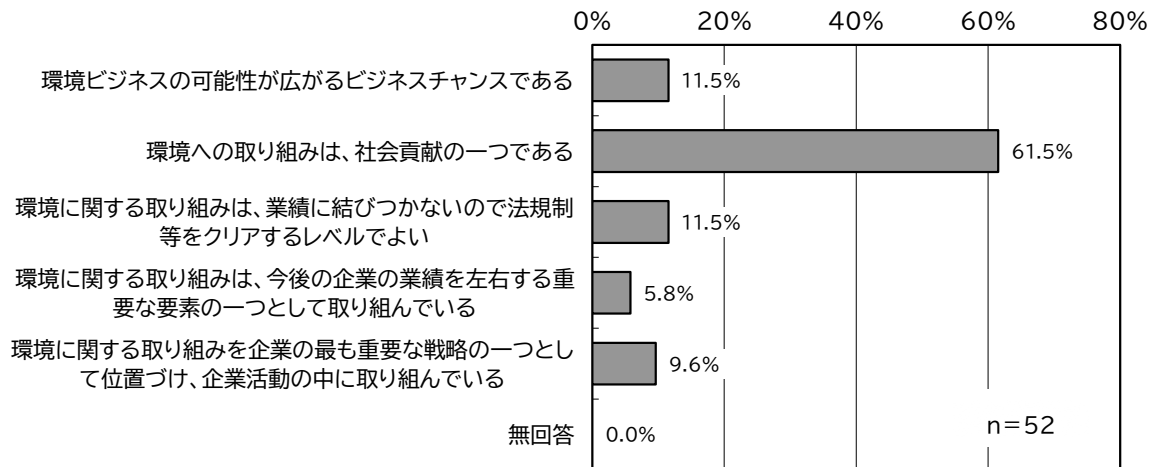
ポイント
【1】

企業の環境への取り組みと企業活動のあり方

「環境への取り組みは、社会貢献の一つである」と6割以上の企業が回答。

■貴事業所では、企業の環境への取り組みと企業活動のあり方についてどう思われますか。考え方に最も近いものを1つ選び、○をつけてください。 ※アンケート調査報告書 P.127 問3

企業の環境への取り組みと企業活動のあり方については、「環境への取り組みは、社会貢献の一つである」が61.5%と最も多くなっています。



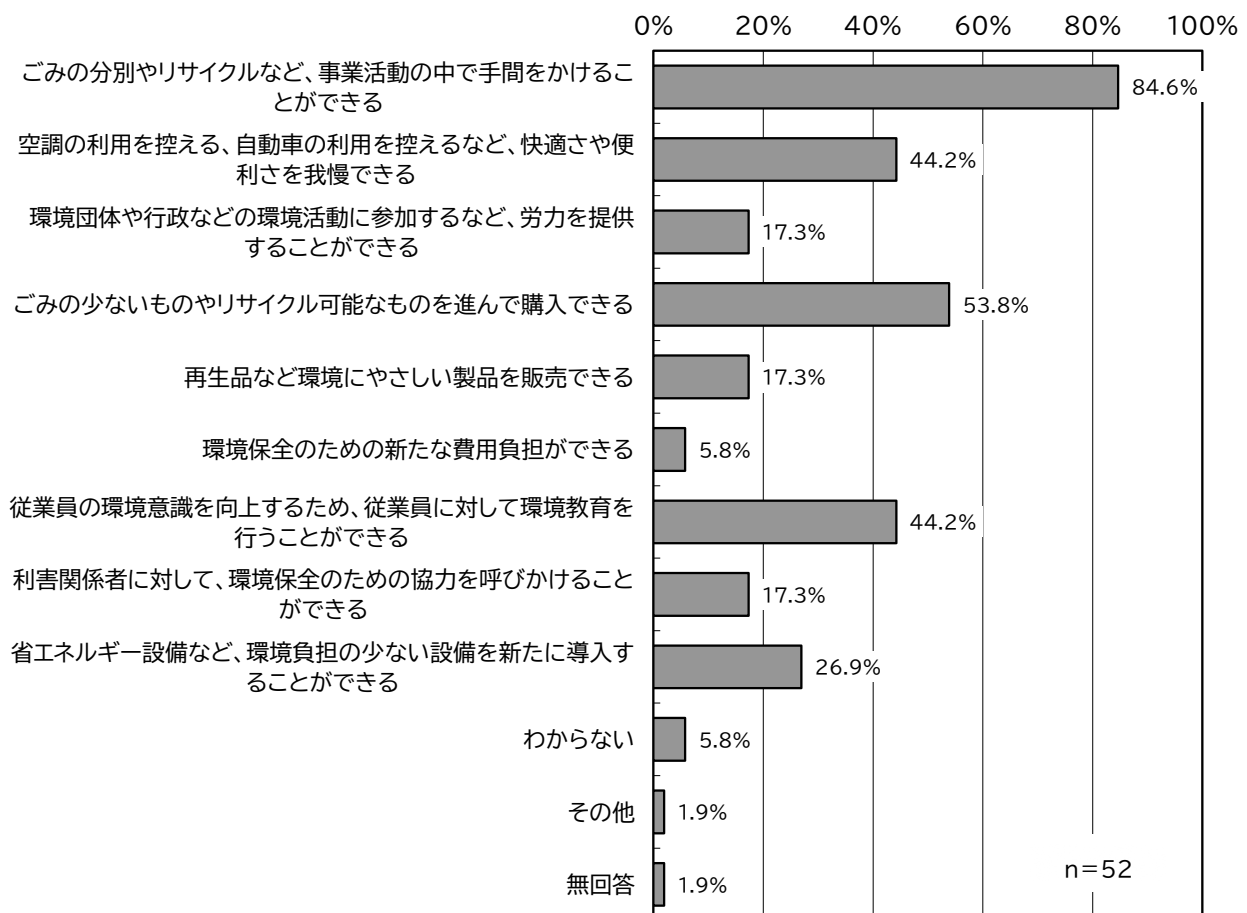
ポイント
【2】

企業が環境保全や環境活動などに協力できること

「ごみの分別やリサイクルなど、事業活動の中で手間をかけることができる」が 84.6%で最多、次いで「ごみの少ないものやリサイクル可能なものを進んで購入できる」、「空調の利用を控える、自動車の利用を控えるなど、快適さや便利さを我慢できる」、「従業員の環境意識を向上するため、従業員に対して環境教育を行うことができる」。

■ 貴事業所としては、環境保全や環境活動などにどのような協力ができますか。あてはまると考えられるものを全て選び、○をつけてください。 ※アンケート調査報告書 P.150 問 13

環境保全や環境活動などにどのような協力ができるかでは、「ごみの分別やリサイクルなど、事業活動の中で手間をかけることができる」が 84.6%と最も多く、次いで「ごみの少ないものやリサイクル可能なものを進んで購入できる」が 53.8%、「空調の利用を控える、自動車の利用を控えるなど、快適さや便利さを我慢できる」、「従業員の環境意識を向上するため、従業員に対して環境教育を行うことができる」がともに 44.2%となっています。



ポイント
【3】

環境保全に係る各種活動の推進について

「機会や時間があれば参加したいと思う」が 26.9%で最多、次いで「参加してみたいがなかなか難しいと思う」、「関心のある活動には参加したいと思う」。

■今後、より良い環境づくりを推進していくためには、事業所、市民、市民団体、行政等が協働して、環境保全に係る各種活動を推進していくことが一層重要になりますが、それについてどう思いますか。次の中からあてはまるものを1つ選び、○をつけてください。 ※アンケート調査報告書 P.165 問 24

各種活動の推進については、「機会や時間があれば参加したいと思う」が 26.9%、「参加してみたいがなかなか難しいと思う」が 23.1%、「関心のある活動には参加したいと思う」が 19.2%となっています。

